



平成 25 年 12 月 4 日
消 費 者 庁
独立行政法人国民生活センター

レーシック手術を安易に受けることは避け、リスクの説明を十分受けましょう！

－希望した視力を得られないだけでなく、重大な危害が発生したケースもあります－

事故情報データベース¹には、レーシック手術²を受けて危害が発生したという情報が 80 件寄せられています（平成 25 年 11 月 8 日までの登録分）。発生している症状は、過矯正による遠視が最も多く、それに伴う頭痛や吐き気等の体調不良により日常生活に支障を来しているケースがみられます。また、乱視、光をまぶしく感じる、ドライアイ、目の痛みなどの症状が発生しているケースもあります。

レーシック手術については、ハロー・グレア³や不正乱視⁴、ドライアイなど、手術後に様々な合併症が起こり得ることが知られていますが、手術による様々なリスクについて医療機関から十分に説明を受けていないおそれのある消費者もみられます。

また、消費者がレーシック手術を受けるきっかけとなった情報の約 4 割は医療機関がインターネットで発信する情報（医療機関のウェブサイト及びインターネット広告）でしたが、これらの情報の一部には、関係法令に抵触するおそれがあるものもみられました。

レーシック手術を検討する際は、安易に手術を受けることは避け、インターネット等から得られる情報を十分に吟味しましょう。また、手術を受ける際は、リスクについて医療機関から十分な説明を受けて理解した上で、本当に手術が必要かどうか、よく検討する必要があります。

¹消費者庁が独立行政法人国民生活センターと連携し、関係機関より「事故情報」、「危険情報」を広く収集し、事故防止に役立てるためのデータ収集・提供システム（平成 22 年 4 月 1 日運用開始）

²本資料におけるレーシック手術とは、レーザーを用いて角膜を変形させる屈折矯正手術のことです。

³光を見たときに、ぼやけて見える現象

⁴角膜の表面に凹凸があるため、眼内で光線が焦点を結ばない乱視

1. 屈折矯正手術とは

公益財団法人日本眼科学会（以下「日本眼科学会」といいます。）のウェブサイトには、次のように書かれています（平成 25 年 11 月 19 日時点）。

近視や遠視や乱視は、目の屈折が正視⁵よりずれることで起こります。屈折矯正手術は、眼鏡やコンタクトレンズを使わず、手術的に近視や乱視を矯正する方法です。最近では、主として近視の矯正を行うため、特殊なレーザー（エキシマレーザー⁶）を使って角膜の屈折力を調整して視力を回復するレーザー屈折矯正手術が開発されました（図 1）。

図 1. 屈折矯正手術の施術方法⁷



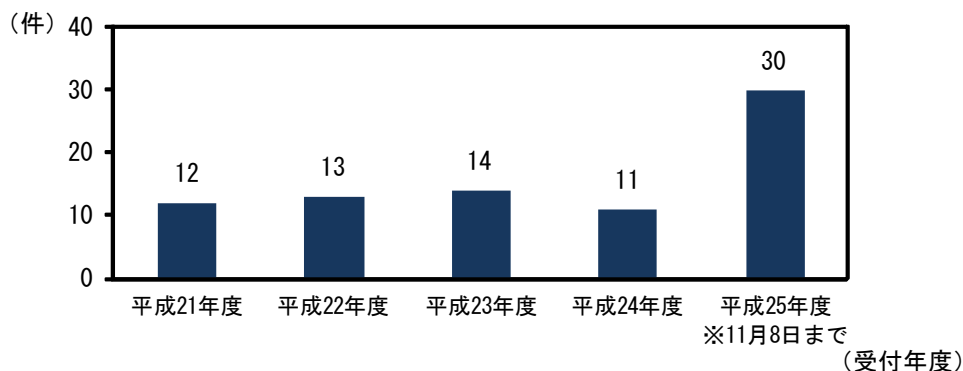
2. レーシック手術に関する危害情報

(1) 事故情報データベースに寄せられた危害情報について

事故情報データベースには、レーシック手術に関する危害情報が平成 21 年度以降 80 件登録されています（平成 25 年 11 月 8 日までの登録分。図 2）。このうち、消費者安全法の重大事故等として公表した事案は 7 件です。平成 25 年度は受付件数が急増していますが、手術日が平成 24 年度以前のものも多く含まれているため、手術による危害が平成 25 年度に多く発生しているか否かは明らかではありません。

自覚症状の内容としては、過矯正による遠視が最も多く、ほかに、乱視、光をまぶしく感じる、ドライアイ、目の痛み、見え方に起因する体調不良などがありました。

図 2. 事故情報データベースに寄せられた危害情報件数の推移



⁵目に入った光が、網膜にぴったり焦点を結ぶ目のこと

⁶非常に波長の短い紫外線のレーザー光。角膜を精密に削ることができる。

⁷屈折矯正手術で代表的なレーシックの説明

(2) PIO-NET⁸に寄せられた相談事例について

PIO-NETには、レーシック手術に関する相談が平成21年度から平成25年度までに315件⁹寄せられています（平成25年11月8日までの登録分）。

相談の内容をみると、視力が上がらなかったなどの施術不良に関する相談がみられました。また、リスクなどの説明不足に関する相談、インターネット広告や医療機関のウェブサイト上の表示などに関する相談もみられました。

(3) 危害情報

① 重大な身体被害に至った事例

<事例1>

手術直後から2か月間、目の表面に激しい痛みがあり、寝たきりの状態になった。目の表面の激しい痛みによる頭痛、吐き気、不眠等が発生した。光や太陽がまぶしく、室内でもサングラスや遮光レンズを使用するようになった。手術後1年は、近くを見ての作業ができなくなり、プリズムレンズ¹⁰の遠近両用眼鏡を常時使用するようになった。現在では、眼鏡やコンタクトで日々調整しているが、眼精疲労が辛い。

（平成22年9月手術 女性 40歳代）

<事例2>

レーシックによる角膜の削り過ぎで遠視にされ、目の周りの筋肉が常時痛む。眼科にて両眼視検査を行い、外斜位¹¹が発覚した。プリズムレンズの遠視眼鏡、目薬等で多少の軽減はするものの、毎日痛みで辛い。

（平成19年2月手術 男性 30歳代）

<事例3>

まぶたの腫れや両目の痛み、ドライアイが顕著で、1時間に数回は目薬をさすような状況になった。見え方の違和感やゆがみ、飛蚊症なども発症した。術後3週間程度は、食べられず、寝たきり状態だった。その後も、電車に乗ってもすぐに座り込んだり、車やエレベーター内で吐いたりするような状況である。

（平成25年2月手術 女性 30歳代）

② 手術前のリスク説明が不十分だったおそれがある事例

<事例4>

レーシック手術を宣伝している眼科医院に行き、手術を受けた。手術前にリスクの説明はなかった。手術後、視力は両目とも0.8~1.0くらいになったが、ドライアイになり、10分ごとに目薬をつけないと目を開けていられないような状態である。事前に

⁸PIO-NET（パイオネット：全国消費生活情報ネットワーク・システム）とは、独立行政法人国民生活センターと全国の消費生活センター等をオンラインネットワークで結び、消費生活に関する情報を蓄積しているデータベースのこと

⁹件数は、本公表のために特別に事例を精査したもの

¹⁰光を屈折させて、左右の視線のずれを補正することができるレンズ

¹¹片方の目の視界を遮った時に、黒目が上下左右へ寄っていく状態

リスクを聞いていれば手術はしなかった。

(事故発生年：平成 22 年 女性 40 歳代)

<事例 5>

インターネットで近所の病院を見付け、手術を受けた。術後、目に違和感が出て見え方もおかしくなり、目が痛み、乾くようになった。現在、地元眼科で症状を緩和するための眼薬を処方してもらっている。広告は、メリットばかりをうたい、手術を受ける前も危険性についての十分な説明がなかった。

(事故発生年：平成 18 年 男性 20 歳代)

③ 広告等をきっかけに手術を受けた事例

<事例 6>

インターネットで有名人が出ている広告を見て眼科を訪れ、レーシック手術を受けた。手術後、遠視になってしまい、頭痛や目の痛み、吐き気があり仕事ができない。

(事故発生年：平成 25 年 女性 30 歳代)

<事例 7>

家族がもらったクーポン券を使ってレーシック手術を受けた。手術後、目の表面や奥の痛み、めまい、まぶしさ、焦点が合わないなどの障害が起きた。3Dの画像を一日中見ているような状態で、吐き気もひどい。遠くは見えるが近くが見えづらく、パソコンを使う仕事に支障を来している。

(事故発生年：平成 25 年 女性 40 歳代)

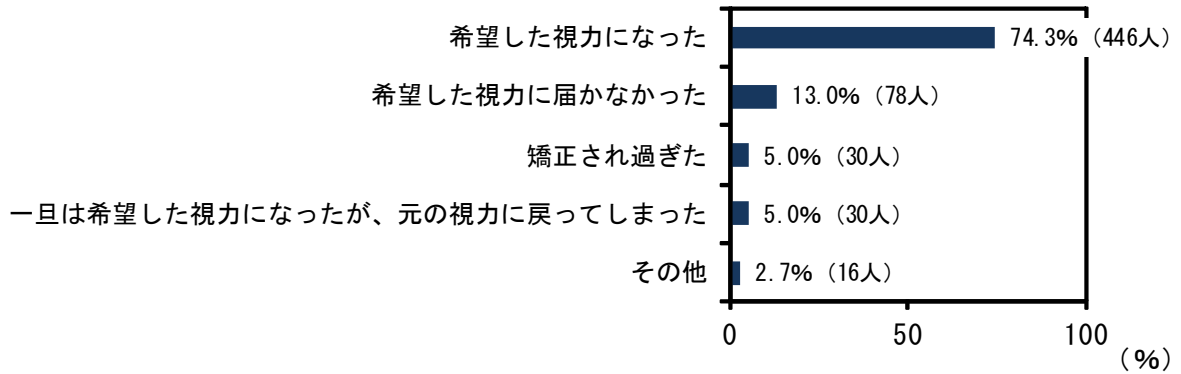
3. レーシック手術に関するアンケート調査

(1) レーシック手術を受けた消費者の4割以上が症状や不具合を感じています

消費者庁が行った、レーシック手術経験者対象のアンケート調査¹²(以下「アンケート調査」といいます。結果の詳細は別紙1参照)によると、レーシック手術後に「希望した視力になった」人が74.3%(446人)でした(図3)。一方、「希望した視力に届かなかった」、「一旦は希望した視力になったが、元の視力に戻ってしまった」を合わせると、回答者の約2割は希望した視力を得られていないことが分かりました。また、5.0%(30人)は「矯正され過ぎた」と回答しました。

¹²レーシック手術に対する消費者の認識や、レーシック手術により発生する不具合や症状等について調べるため、平成25年11月に20～60歳代のレーシック手術経験者600人を対象にアンケート調査を実施(詳細は別紙1参照)。なお、レーシック手術を受けた時期は不明。あわせて、レーシック手術を受けたい人600人を対象としたアンケート調査も実施

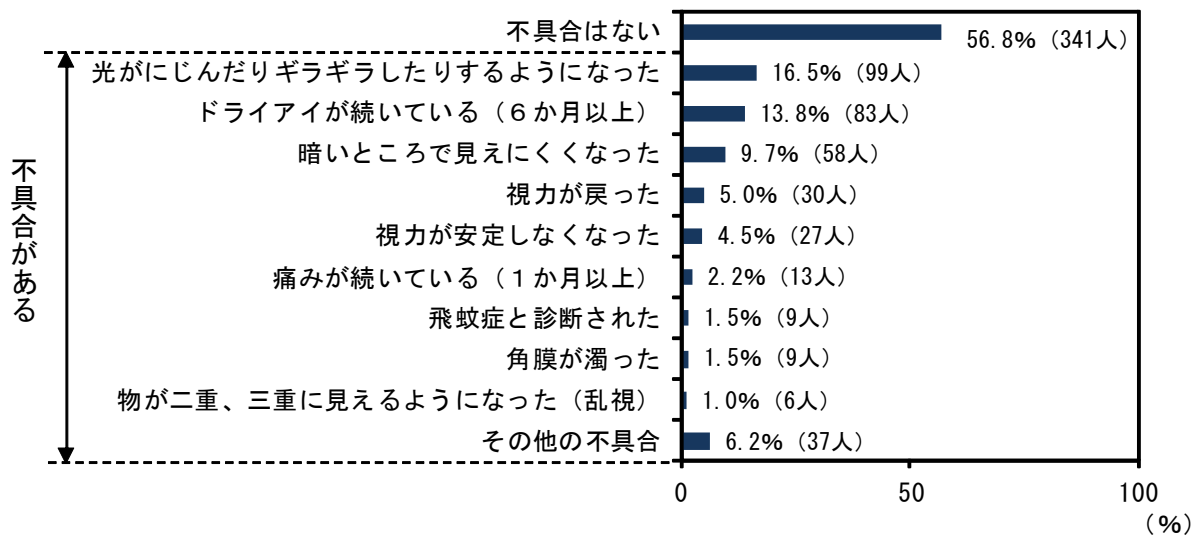
図3. レーシック手術後の視力



※サンプル数は600人（単回答）。

また、手術後に視力以外の症状や不具合が生じていると回答した人の割合が43.2%（259人）に上りました。症状や不具合の内容は、「光がにじんだりギラギラしたりする」、「ドライアイが続いている」、「暗いところで見えにくくなった」の順で多くみられました（図4）。

図4. レーシック手術を受けた後に発生した視力以外の症状や不具合

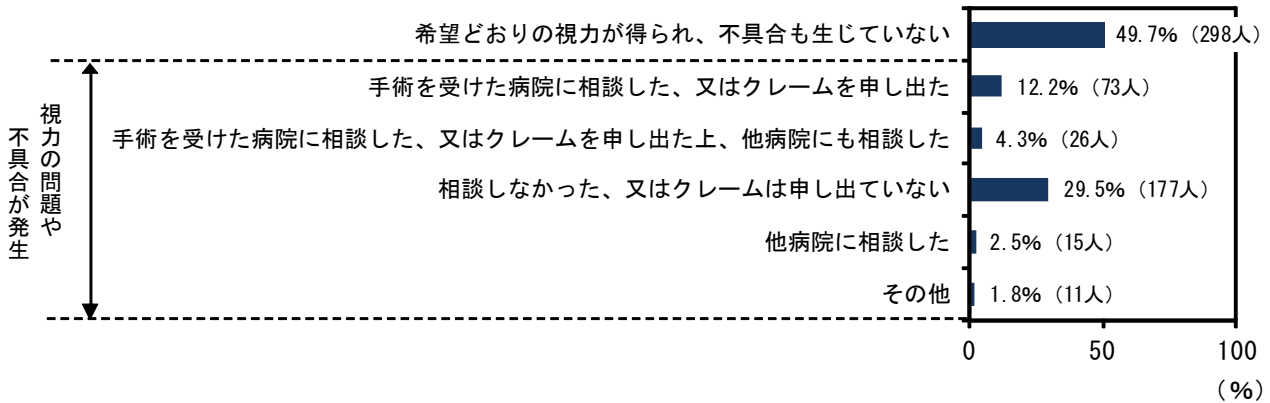


※サンプル数は600人とし、複数回答のため各項目の合計値は600人又は100%に必ずしも一致しない。

「希望した視力になった」と回答した446人の内、33.2%（148人）は視力以外の不具合が生じており、希望どおりの視力が得られ、他の症状も特段生じていないという人は、回答者全体の49.7%（298人）でした。

手術後の視力が希望どおりにならなかった又は不具合が発生したと回答した302人に、手術を受けた病院に申し出たかを尋ねたところ、「手術を受けた医療機関に相談しなかった、又はクレームを申し出していない」が最も多く、手術経験者の29.5%（177人）でした（図5）。一方、手術を受けた医療機関のみに相談やクレームを申し出たとの回答は12.2%（73人）でした。また、6.8%（41人）は、手術を受けた医療機関とは別の病院に相談していました。

図5. 手術後の視力や不具合について手術を受けた病院に申し出たか



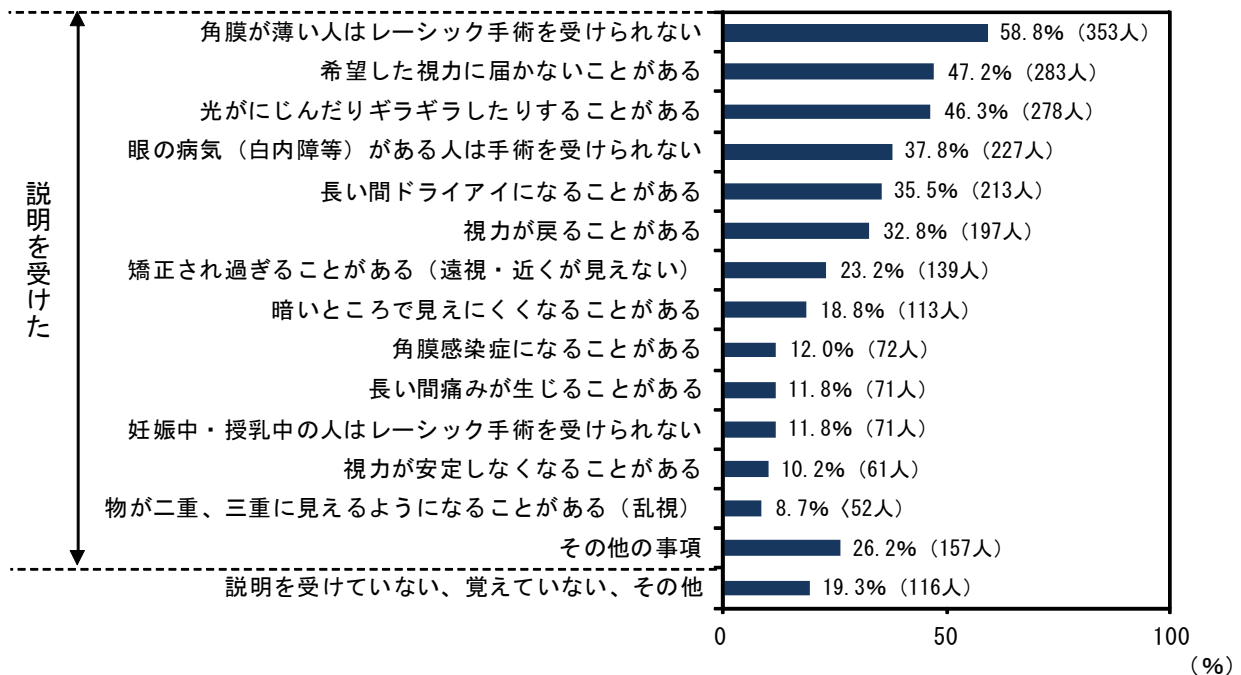
※集計対象はレーシック手術後に視力の問題や不具合が発生したと回答した 302 人（単回答）。本グラフのサンプル数はレーシック手術経験者 600 人

(2) 手術前のリスク説明が不十分な場合があります

手術前のリスク等の説明については、74.7% (448 人) は「説明を受けて理解した」との回答でしたが、それ以外の人、リスク説明を十分に受けていなかったり、十分に理解できないまま手術を受けている可能性があります。

「説明を受けて理解した」、「説明を受けたが理解できなかった」(36 人) と回答した 484 人に受けた説明の内容を尋ねたところ、レーシック手術を受けられない人（角膜が薄い人や目に疾患がある人等）については比較的多くの人説明を受けていましたが、手術後に起こり得る症状等については、説明がなされていないおそれのある内容もあることが分かりました（図6）。

図6. 手術前に受けた説明の内容



※集計対象は、「説明を受けて理解した」、「説明を受けたが理解できなかった」と回答した 484 人。サンプル数は 600 人とし、複数回答のため各項目の合計値は 600 人又は 100% に必ずしも一致しない。

(3) 3人に1人は手術後一定期間の検査を受けていません

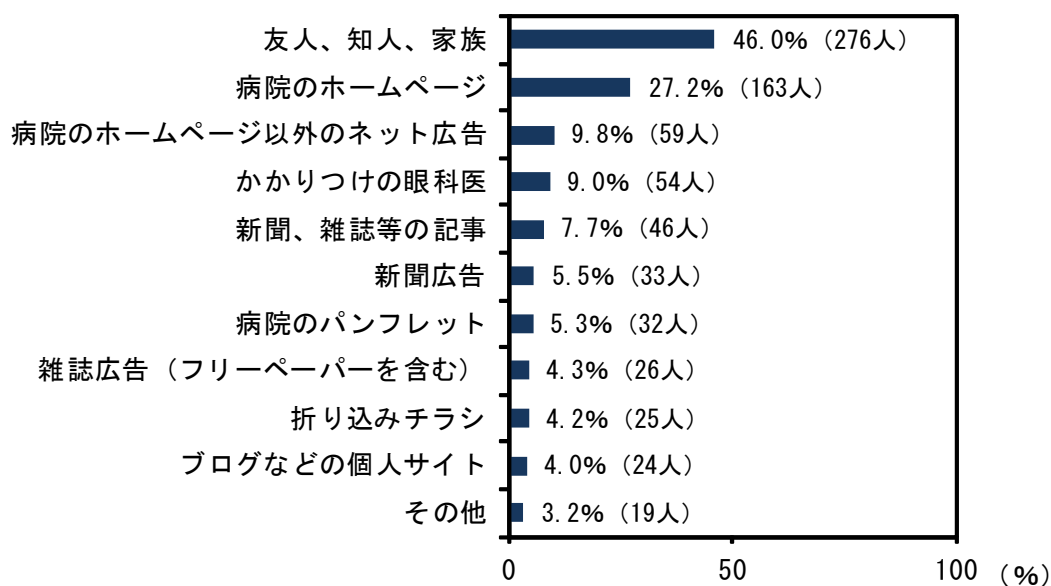
日本眼科学会の「屈折矯正手術のガイドライン」¹³では、原則として術後6か月まで経過観察を行い、その後も長期にわたって経過を見守ることが望ましい、とされています。しかし、手術後一定期間に検査を「受けていない・受けなかった」人の割合が33.5%（201人）でした。

手術後一定期間に検査を受けていない人は「不具合等が発生した際に手術を受けた病院に相談」した割合が9.5%と非常に低く（検査を受けた人は32.0%）、不具合のための相談の場としても、定期的な検査が重要であることが確認されました。

(4) 医療機関がインターネットで発信する情報が、手術を受けたきっかけの4割弱

レーシック手術を受けたきっかけは「友人、知人、家族」（46.0%、276人）が最も多くなっています。次いで「病院のホームページ」（27.2%、163人）、「病院のホームページ以外のネット広告」（9.8%、59人）となっており、医療機関がインターネットで発信する情報が主要な情報源となっていることが分かりました（図7）。

図7. レーシック手術を受けたきっかけ



※サンプル数は600人とし、複数回答のため各項目の合計値は600人又は100%に必ずしも一致しない。

4. レーシック手術を行う医療機関の広告等の問題点

レーシック手術の医療サービスは専門性が高いため、消費者はインターネットに記載された情報だけでは、実際のサービスの質について十分に理解することは困難な場合も多くあります。

消費者庁及び独立行政法人国民生活センターが、医療機関がインターネットで発信する情報について確認したところ、消費者がサービスの質等について誤解する可能性のある情報が掲載されていることが確認されています。これらの一部は関係法令に抵触するおそれ

¹³屈折矯正手術のガイドライン. 日本眼科学会雑誌 114(8) : 692-694, 2010 (※第六次答申)

もあることから、既に関係省庁に情報提供を行いました。消費者は、情報を十分に吟味し、安易な手術を行わないように注意することが必要です。

＜消費者が注意すべきインターネット上の広告等の例＞

- ・ 医療法上広告が可能とされていない事項の広告（バナー広告等の場合）
（例）芸能人等が受診している旨
 広告可能な資格以外の医師の専門性に関する資格名
- ・ 他の医療機関と比較して優良である旨の広告等
（例）「症例数世界 No. 1」
- ・ 客観的事実であることを証明することができない広告等
（例）患者の体験談の紹介
- ・ 費用を強調した広告等

5. 専門家からのアドバイス

事件事例やアンケート結果から、リスクの説明不足や過矯正の問題がみられました。そのため、日本眼科学会から、レーシック手術について次のようなアドバイスを頂きました（詳細は別紙2参照）。

（1）手術のリスクについて

- ・ ハロー・グレア、不正乱視、ステロイド緑内障、ドライアイなどの術後合併症が知られている。ハロー・グレアやドライアイは術後長期間持続することもあるため、手術前に、可能性のある合併症と問題点について十分に説明を受け、理解し、同意しておく必要がある。
- ・ レーシック手術で削った角膜は元に戻らない。

（2）過矯正の問題点について

- ・ 特に近視の場合、矯正し過ぎて術後に遠視になってしまうと、眼精疲労や近見障害¹⁴などが問題になることがある。
- ・ 矯正の目標として、裸眼視力 1.2 や 1.5 を目指すのではなく、やや控えめの視力目標を設定した方が、前記のような問題を避けることができる。
- ・ 軽度の近視は老視になったときに有利である。
- ・ 特に 40 歳代以上の方は調節力が衰えてきているため、術後に眼精疲労や近見障害の症状が強く出ることがある。

¹⁴ 近くの見えにくくなること

6. 消費者の皆様へ ―レーシック手術を受ける上での注意点―

(1) リスクがあることを認識しましょう

思ったような視力が出ないだけでなく、物が二重に見える、光がにじむ、光が放射線状に広がって見えるなど、根本的な治療が困難となる症状が起きることがあります。

(2) リスクについて医療機関でしっかり説明してもらいましょう

医師によっては具体的な後遺症について十分な説明がなされないケースがあります。手術を受けるにあたっては、手術前の検査結果から考えられるリスクについて、十分な説明を求めましょう。

(3) インターネット上の情報はよく吟味しましょう

過去の施術数、芸能界やスポーツ界等の有名人のコメントなどが掲載されている医療機関のウェブサイトがありますが、必ずしもその医療機関の施術能力を反映するものではありません。

(4) 本当にレーシック手術が必要か、慎重に検討しましょう

既に眼鏡やコンタクトレンズ等で視力矯正をしており、不便を感じていない場合には、レーシック手術及びその後のリスクをよく考え、本当にレーシック手術が必要か、慎重に検討しましょう。

本資料に関する問合せ先

消費者庁消費者安全課 河岡、須藤、小野寺、小原

TEL : 03(3507)9137 (直通)

FAX : 03(3507)9290

URL : <http://www.caa.go.jp/>

独立行政法人国民生活センター

商品テスト部 影山、原田

TEL : 042(758)3165

FAX : 042(758)5626

URL : <http://www.kokusen.go.jp>

別紙1 レーシック手術に関するアンケート調査

1. 調査内容

(1) 調査目的

レーシック手術経験者及びレーシック手術の希望者を対象にアンケート調査を実施し、消費者のレーシック手術に対する意識や被害の実態等を把握し、消費者への注意喚起に資するものとする。

(2) 調査主体

消費者庁

(3) 調査方法

インターネット調査

(4) 調査時期

平成 25 年 11 月

(5) 調査対象条件、総サンプル数

20～60 歳代のレーシック手術経験者 600 人及びレーシック手術の希望者 600 人の計 1200 人を調査対象とした。

(6) 回答者属性

①回答地域：全国

②調査対象者の属性

レーシック手術経験者（600 人）	男女比	男性：358 人 女性：242 人
	年齢構成 ¹⁵	20 歳代：30 人 30 歳代：158 人 40 歳代：225 人 50 歳代：115 人 60 歳代：72 人
レーシック手術希望者（600 人）	男女比	男性：437 人 女性：163 人
	年齢構成	20 歳代：16 人 30 歳代：96 人 40 歳代：211 人 50 歳代：193 人 60 歳代：84 人

¹⁵レーシック手術を受けた時期は不明

2. 調査結果

(1) レーシック手術経験者

Q 1 レーシック手術を受けた主な理由を教えてください。(複数回答)

眼鏡やコンタクトレンズの付け外しが面倒	446 人 (74.3%)
眼鏡やコンタクトレンズよりもレーシック手術の方が経済的	206 人 (34.3%)
趣味、スポーツをする際に眼鏡やコンタクトレンズは不便	183 人 (30.5%)
友人、知人、家族、著名人等がしている	93 人 (15.5%)
外見上、眼鏡が似合わない	67 人 (11.2%)
簡単にできそうだった	67 人 (11.2%)
仕事上、眼鏡やコンタクトレンズを使用できない	29 人 (4.8%)
かかりつけ眼科医から勧められた	26 人 (4.3%)
その他	47 人 (7.8%)

Q 2 レーシック手術を受けた主なきっかけを教えてください。(複数回答)

友人、知人、家族	276 人 (46.0%)
病院のホームページ	163 人 (27.2%)
病院のホームページ以外のネット広告	59 人 (9.8%)
かかりつけの眼科医	54 人 (9.0%)
新聞、雑誌等の記事	46 人 (7.7%)
新聞広告	33 人 (5.5%)
病院のパンフレット	32 人 (5.3%)
雑誌広告 (フリーペーパーを含む。)	26 人 (4.3%)
折り込みチラシ	25 人 (4.2%)
ブログなどの個人サイト	24 人 (4.0%)
その他	19 人 (3.2%)

Q 3 レーシック手術を受けた病院を選んだ主な理由を教えてください。(複数回答)

有名な病院だった	268 人 (44.7%)
手術数が多い病院だった	246 人 (41.0%)
割引やクーポン制度があった	189 人 (31.5%)
症例の実績が良かった	168 人 (28.0%)
友人、知人、家族が手術を受けた	159 人 (26.5%)
費用が安かった	153 人 (25.5%)
手術後の長期保証があった	78 人 (13.0%)
手術の効果、有効性の表示が魅力的だった	71 人 (11.8%)
病院が自宅の近く	49 人 (8.2%)
著名人などの評判体験談が良かった	35 人 (5.8%)
かかりつけ医の紹介	26 人 (4.3%)
その他	20 人 (3.3%)

Q 4 レーシック手術を受けられない人や、手術後に問題が起きる可能性について、レーシック手術の説明を受ける前に知っていましたか。(単回答)

知っていた	419 人 (69.8%)
知らなかった	129 人 (21.5%)
覚えていない	52 人 (8.7%)

Q 5 前問で「知っていた」と回答した方にお伺いします。次のうち、どの事項を知っていましたか？(n=419、複数回答)

角膜が薄い人はレーシック手術を受けられない	353 人 (72.9%)
光がにじんだりギラギラしたりすることがある	250 人 (59.7%)
希望した視力に届かないことがある	244 人 (58.2%)
眼の病気(白内障・円錐角膜・網膜疾患など)がある人はレーシック手術を受けられない	223 人 (53.2%)
長い間ドライアイになることがある	186 人 (44.4%)
視力が戻ることもある	171 人 (40.8%)
矯正され過ぎることがある(遠視、近くが見えない)	125 人 (29.8%)
角膜感染症になることがある	99 人 (23.6%)
暗いところで見えにくくなることもある	95 人 (22.7%)
妊娠中・授乳中の人はレーシック手術を受けられない	77 人 (18.4%)
視力が安定しなくなることがある	57 人 (13.6%)
長い間痛みが生じることがある	55 人 (13.1%)
物が二重、三重に見えるようになることがある(乱視)	47 人 (11.2%)
飛蚊症になることがある	37 人 (8.8%)
角膜が濁ることがある	35 人 (8.4%)
角膜が変形することがある	26 人 (6.2%)
眼圧が正しく測定できなくなる	24 人 (5.7%)
色の区別がつきにくくなることもある	16 人 (3.8%)
正確な白内障手術ができなくなる	15 人 (3.6%)
その他	5 人 (1.2%)

Q 6 レーシック手術を受けるに当たり、リスクの説明を受けましたか。またその内容は十分理解できましたか？(単回答)

説明を受けて理解した	448 人 (74.7%)
説明を受けたが理解できなかった	36 人 (6.0%)
説明は受けていないが、渡された書面に書いてあった	40 人 (6.7%)
説明を受けていない	14 人 (2.3%)
覚えていない	56 人 (9.3%)
その他	6 人 (1.0%)

Q7 前問で「説明を受けて理解した」、「説明を受けたが理解できなかった」と回答した方にお伺いします。どのようなリスクについて説明を受けましたか？（n=484、複数回答）

角膜が薄い人はレーシック手術を受けられない	353 人 (72.9%)
希望した視力に届かないことがある	283 人 (58.5%)
光がにじんだりギラギラしたりすることがある	278 人 (57.4%)
眼の病気（白内障・円錐角膜・網膜疾患など）がある人はレーシック手術を受けられない	227 人 (46.9%)
長い間ドライアイになることがある	213 人 (44.0%)
視力が戻る可能性がある	197 人 (40.7%)
矯正され過ぎることがある（遠視、近くが見えない）	139 人 (28.7%)
暗いところで見えにくくなる可能性がある	113 人 (23.3%)
角膜感染症になることがある	72 人 (14.9%)
妊娠中・授乳中の人はレーシック手術を受けられない	71 人 (14.7%)
長い間痛みが生じることがある	71 人 (14.7%)
視力が安定しなくなることがある	61 人 (12.6%)
物が二重、三重に見えるようになることがある（乱視）	52 人 (10.7%)
飛蚊症になることがある	36 人 (7.4%)
角膜が変形することがある	27 人 (5.6%)
眼圧が正しく測定できなくなる	27 人 (5.6%)
角膜が濁ることがある	26 人 (5.4%)
正確な白内障手術ができなくなる	22 人 (4.5%)
色の区別がつきにくくなる可能性がある	15 人 (3.1%)
その他	4 人 (0.8%)

Q8 レーシック手術を受けて視力はどうなりましたか？（単回答）

希望した視力になった	446 人 (74.3%)
希望した視力に届かなかった	78 人 (13.0%)
矯正され過ぎた（視力は上がったが近くが見えなくなったなど）	30 人 (5.0%)
一旦は希望した視力になったが、元の視力に戻ってしまった	30 人 (5.0%)
その他	16 人 (2.7%)

Q9 レーシック手術後に、手術を受けた病院で一定期間の検査を受けていますか？（単回答）

受けている	399 人 (66.5%)
受けていない・受けなかった	201 人 (33.5%)

Q10 前問で「受けていない・受けなかった」と回答した方にお伺いします。検査を受けていない、若しくは受けなかった理由は何ですか？（n=201、単回答）

レーシック手術後の調子が良く検査を受ける必要を感じなかったから	62人 (30.8%)
医師から指示がなかったから	56人 (27.9%)
都合が合わなかったから	31人 (15.4%)
面倒だったから	30人 (14.9%)
レーシック手術を受けた病院では十分な対応が受けられないと思ったから	10人 (5.0%)
その他	12人 (6.0%)

Q11 手術後に視力以外の不具合があれば症状を教えてください。（複数回答）

光がにじんだりギラギラしたりするようになった	99人 (16.5%)
ドライアイが続いている（6か月以上）	83人 (13.8%)
暗いところで見えにくくなった	58人 (9.7%)
視力が戻った	30人 (5.0%)
視力が安定しなくなった	27人 (4.5%)
痛みが続いている（1か月以上）	13人 (2.2%)
飛蚊症と診断された	9人 (1.5%)
角膜が濁った	9人 (1.5%)
物が二重、三重に見えるようになった（乱視）	6人 (1.0%)
角膜感染症と診断された	4人 (0.7%)
色の区別がつきにくくなった	4人 (0.7%)
角膜が変形した	2人 (0.3%)
その他	27人 (4.5%)
不具合はない	341人 (56.8%)

Q12 レーシック手術後の視力や不具合について、手術を受けた病院に対して申し出ましたか？（n=302、単回答）

相談した、又はクレームを申し出た	73人 (24.2%)
相談した、又はクレームを申し出た上、他病院にも相談した	26人 (8.6%)
相談しなかった、又はクレームは申し出していない	177人 (58.6%)
他病院に相談した	15人 (5.0%)
その他	11人 (3.6%)

Q13 現在、その不具合についてはどのように対処していますか？ (n=302、単回答)

レーシック手術を受けた病院で、再手術をした	25人 (8.3%)
レーシック手術を受けた病院で、目薬等の投薬治療をしている	66人 (21.9%)
他の病院等で、再手術をした	6人 (2.0%)
他の病院等で、目薬等の投薬治療をしている	36人 (11.9%)
眼鏡やコンタクトレンズ等で矯正している	40人 (13.2%)
その他	129人 (42.7%)

Q14 前問で、レーシック手術を受けた病院以外で何らかの対処をしている（「他の病院等で、再手術をした」、「他の病院等で、目薬等の投薬治療をしている」、「眼鏡やコンタクトレンズ等で矯正している」、「その他」）と回答した方にお伺いします。その不具合について、レーシック手術を受けた病院ではないところで対処している理由を教えてください。(n=211、単回答)

レーシック手術を受けた病院では、何も対応がなされなかった	28人 (13.3%)
レーシック手術を受けた病院での対応では、不具合が解決しなかった	55人 (26.0%)
その他	128人 (60.7%)

(2) レーシック手術希望者

Q15 レーシック手術を受けたい主な理由を教えてください。(複数回答)

眼鏡やコンタクトレンズの付け外しが面倒	488人 (81.3%)
趣味、スポーツをする際に眼鏡やコンタクトレンズは不便	174人 (29.0%)
眼鏡やコンタクトレンズよりもレーシック手術の方が経済的	87人 (14.5%)
外見上、眼鏡が似合わない	61人 (10.2%)
簡単にできそうだった	54人 (9.0%)
友人、知人、家族、著名人等がしている	47人 (7.8%)
仕事上、眼鏡やコンタクトレンズを使用できない	12人 (2.0%)
かかりつけ眼科医から勧められた	3人 (0.5%)
その他	10人 (1.7%)

Q16 レーシック手術を受けたいと思った主なきっかけを教えてください。（複数回答）

友人、知人、家族	271 人 (45.2%)
新聞、雑誌の記事	146 人 (24.3%)
病院のホームページ以外のネット広告	71 人 (11.8%)
雑誌広告（フリーペーパーを含む。）	57 人 (9.5%)
新聞広告	55 人 (9.2%)
病院のホームページ	42 人 (7.0%)
ブログなどの個人サイト	42 人 (7.0%)
病院パンフレット	27 人 (4.5%)
折り込みチラシ	13 人 (2.2%)
かかりつけの眼科医	8 人 (1.3%)
その他	52 人 (8.7%)

Q17 レーシック手術を受けるとしたら、どのような病院を選びますか。（複数回答）

症例の実績が良い病院	392 人 (65.3%)
手術後の長期保証がある病院	293 人 (48.8%)
有名な病院	266 人 (44.3%)
手術数が多い病院	227 人 (37.8%)
費用が安い病院	179 人 (29.8%)
手術の効果、有効性の表示が魅力的な病院	158 人 (26.3%)
友人、知人、家族が手術を受けた病院	129 人 (21.5%)
自宅の近くの病院	123 人 (20.5%)
割引やクーポン制度がある病院	59 人 (9.8%)
手術を受けた著名人などの体験談が良い病院	51 人 (8.5%)
かかりつけ医から紹介を受けた病院	45 人 (7.5%)
その他	2 人 (0.3%)

Q18 レーシック手術を受けられない人や、手術後に問題が起きる可能性があることを、ご存知ですか？（単回答）

知っている	414 人 (69.0%)
知らない	186 人 (31.0%)

Q19 前問で「知っている」と回答した方にお伺いします。次のうち、どの事項を知っていましたか？（n=414、複数回答）

希望した視力に届かないことがある	212 人 (51.2%)
眼の病気（白内障・円錐角膜・網膜疾患など）がある人はレーシック手術を受けられない	158 人 (38.2%)
角膜が薄い人はレーシック手術を受けられない	149 人 (36.0%)
角膜感染症になることがある	133 人 (32.1%)
長い間ドライアイになることがある	108 人 (26.1%)
光がにじんだりギラギラしたりすることがある	90 人 (21.7%)
視力が戻ることもある	85 人 (20.5%)
長い間痛みが生じることがある	85 人 (20.5%)
矯正され過ぎることがある（遠視、近くが見えない）	78 人 (18.8%)
視力が安定しなくなることがある	53 人 (12.8%)
妊娠中・授乳中の人はレーシック手術を受けられない	43 人 (10.4%)
角膜が濁ることがある	41 人 (9.9%)
暗いところで見えにくくなることがある	40 人 (9.7%)
物が二重、三重に見えるようになることがある（乱視）	34 人 (8.2%)
角膜が変形することがある	33 人 (8.0%)
飛蚊症になることがある	26 人 (6.3%)
眼圧が正しく測定できなくなる	18 人 (4.3%)
正確な白内障手術ができなくなる	16 人 (3.9%)
色の区別がつきにくくなることがある	8 人 (1.9%)
その他	8 人 (1.9%)

別紙2 レーシック手術に関する専門家のアドバイス

日本眼科学会に、レーシック手術に関する説明と、消費者の方へのアドバイスを伺いました。

日本眼科学会では、平成22年に、手術をする医師向けに「屈折矯正手術のガイドライン」を作成しました。このガイドラインを中心に、消費者の方々への注意点を解説します。

(1) 手術を行う術者について

ガイドラインでは、術者は眼科専門医で、日本眼科学会が指定する屈折矯正手術講習会を、5年に一回は受講する必要があるとしています。

眼科専門医の一覧は、日本眼科学会のウェブサイト (<http://www.nichigan.or.jp/>) で、どなたでも見るできるようになっています。

(2) 患者さんの手術適応

屈折矯正手術が検討の対象となるのは、屈折異常（近視や遠視、乱視）があり、眼鏡やコンタクトレンズの装用が困難な場合又は何らかの特別な理由がある場合に限りです。屈折矯正手術の長期的な予後についてはまだ不確定な部分があり、また正常な目を切開して削る手術であることから、適応の判断は慎重に行う必要があります。

特に、眼鏡やコンタクトレンズでの矯正でそれほど不便を感じていない場合には、くれぐれも慎重に適応を考えるべきです。

(3) 年齢と矯正量

18歳以上が適応となります。なお、未成年者は親権者の同意を必要とします。

近視の矯正量は原則として6D¹⁶を限度とします。ただし、何らかの医学的根拠を理由としてこの基準を超える場合は、十分なインフォームド・コンセントのもと、10Dまでの範囲で実施することとします。

ただし、近視が強いほど角膜を削る量も大きくなりますので、術後の視機能を考えた場合、一般に強い近視に対する手術は勧められません。

遠視と乱視の矯正については、矯正量の限度は6Dとなっています。

(4) 過矯正を避けること

矯正量が多過ぎると、術後に様々な問題が生じる可能性があります。特に近視の場合、矯正し過ぎて術後に遠視になってしまうと、眼精疲労や近見障害などが問題になることがあります。矯正の目標として、裸眼視力1.2や1.5を目指すのではなく、やや控えめの視力目標を設定した方が、こういった問題を避けることができます。特に

¹⁶Dとは、屈折度数を表す単位で、眼鏡等で「度」が強いなどといわれる際の「度」のこと

40歳代以上の方は調節力が衰えてきていますので、御自分で思われている以上に、術後に眼精疲労や近視障害の症状が強くなる場合があります。

(5) 実施が禁忌とされる場合

①円錐角膜、②活動性の外眼部炎症、③白内障（核性近視）、④ぶどう膜炎や強膜炎など活動性の炎症、⑤重症の糖尿病やアトピー性疾患、免疫不全疾患、⑥妊娠中又は授乳中、⑦円錐角膜疑い

(6) 実施に慎重を要するもの

①緑内障、②結合組織疾患、③ドライアイ、④向精神薬の服用、⑤角膜ヘルペスの既往、⑥屈折矯正手術の既往

(7) 術前検査

屈折矯正手術の適応であるか否かについて評価するために、術前に様々な検査を行います。特に、角膜が薄い場合（角膜厚が小さい）は、レーシックの適応にならないこともありますので、注意が必要です。

(8) 術後合併症とインフォームド・コンセントについて

ハロー・グレア、不正乱視、ステロイド緑内障、ドライアイなどの術後合併症が知られています。手術前に、可能性のある合併症と問題点について十分に説明を受け、理解・同意しておく必要があります。ハロー・グレアや、ドライアイは、術後長期間持続することもあります。

また、眼鏡やコンタクトレンズといった既に確立した安全な矯正方法があること、軽度の近視は老視になったときに有利であること、レーシックによって削った角膜は元に戻らないことなど、レーシックのデメリット面も理解しておく必要があります。